

令和 5 年度移住者意識調査結果の概要について

1. 概要

(1) 目的

- 平成 28 年度の前回調査から 7 年が経過。現在の定住施策の点検やコロナ禍を経た移住希望者の意識・ニーズの変化を把握し、今後の施策の方向性を検討するため意識調査を実施。
- 本書では U ターン/I ターンの比較と共に、①階層別の比較、②前回調査との比較、③その他のトピックスについて報告。

(2) 調査期間

令和 5 年 6 月 15 日～10 月 31 日（低関心層のみ 8 月 8 日～1 月 31 日）

(3) 調査方法

インターネットを活用したアンケート調査票にて実施。

(4) 調査対象

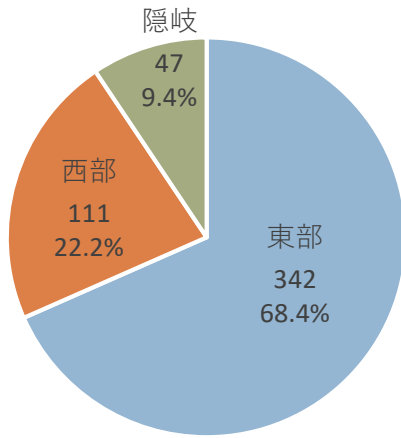
	実践層	検討層	関心層	低関心層
対象者	くらしまねっと登録の 県内企業に就職した者、 及びその家族等 回収数 500	くらしまねっとに求職 登録（Web 履歴書入力） している県外在住者 回収数 531	くらしまねっと登録者 のうち求職登録者を除 く県外在住者等 回収数 540	定住財団が実施する「し まねサブプロジェクト」に 参加する者 回収数 169
UI ターン	U ターン … 56.6 % I ターン … 43.4 %	U ターン … 24.9 % I ターン … 75.1 %	U ターン … 30.4 % I ターン … 69.5 %	U ターン … 100 %
性別	男性 … 63.4 % 女性 … 36.6 %	男性 … 57.3 % 女性 … 42.7 %	男性 … 50.0 % 女性 … 50.0 %	男性 … 45.0 % 女性 … 55.0 %
年代 ※割合が 高い順	30 代 … 38.4 % 20 代 … 25.2 % 40 代 … 23.6 % 50 代 … 7.6 %	30 代 … 27.8 % 50 代 … 23.5 % 40 代 … 22.8 % 20 代 … 16.5 %	30 代 … 38.8 % 40 代 … 25.2 % 50 代 … 18.5 % 20 代 … 11.5 %	25-29 歳 … 37.3 % 30-34 歳 … 32.5 % 35-39 歳 … 14.2 % 20-24 歳 … 16.0 % ※20～39 歳が対象
現住所 ※割合が 高い順	<調査票エリア区分> 松江市 … 39.4 % 出雲市 … 19.0 % 津和野町 … 9.0 % 隠岐の島町 … 7.0 %	<都道府県区分> 大阪府 … 20.5 % 東京都 … 16.6 % 神奈川県 … 8.7 % 広島県 … 8.5 %	<都道府県区分> 東京都 … 17.2 % 大阪府 … 14.6 % 神奈川県 … 9.1 % 広島県 … 7.8 %	(現住所の設問なし)
前回調査	回収数 258	回収数 604		回収数 222 ※I ターン… 100 %

※前回調査方法：調査票の郵送（低関心層のみアンケート調査会社に委託しインターネット回答）

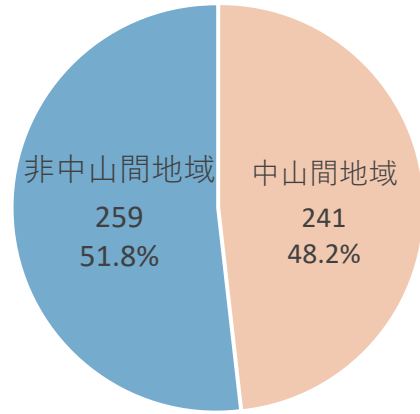
※くらしまねっと：（公財）ふるさと島根定住財団が実施する無料職業紹介サイト

※サブプロジェクト：県内在住者から県外在住の出身者へ物品・メッセージを送付し U ターンを促進する事業

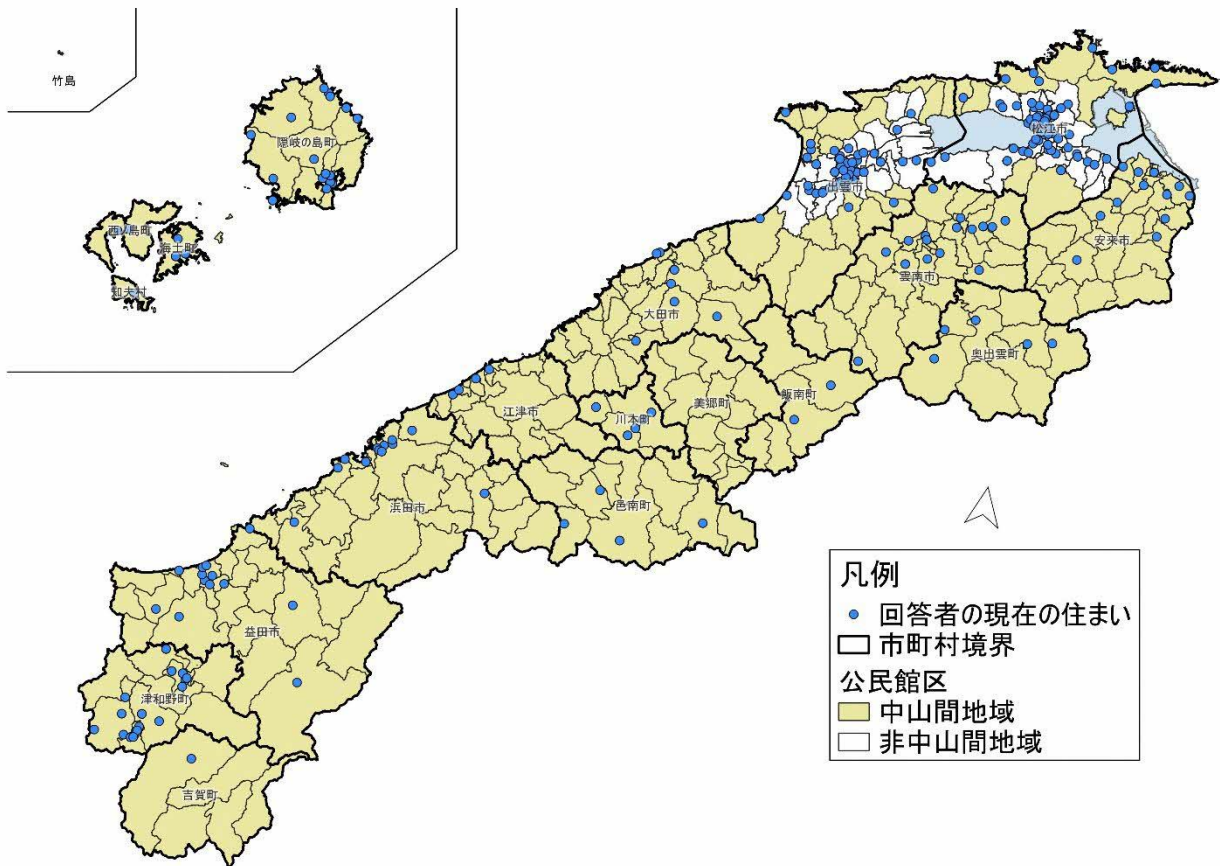
(5) 実践層の回答者分布 (現住所)



n = 500
※UI ターン合計



n = 500
※UI ターン合計



2. 調査結果（階層別比較）

○以下4つの共通設問の回答を軸に、移住者の傾向を分析する。

○また、設問ごとでUターンとIターンの比較を行うとともに、各階層の回答を比較し、階層ごとで変化する意向の推移を見る。

〔4つの共通設問〕

(1) UI ターン検討の動機

(2) UI ターン検討時の不安

(3) UI ターン検討時の具体的な困りごとや不便

(4) UI ターン後の生活で重視する点

(1) UI ターン検討の動機〔実践層〕〔検討層〕〔関心層〕

○島根への移住に関心を持ち、具体的に検討をはじめ「動機」を分析した。

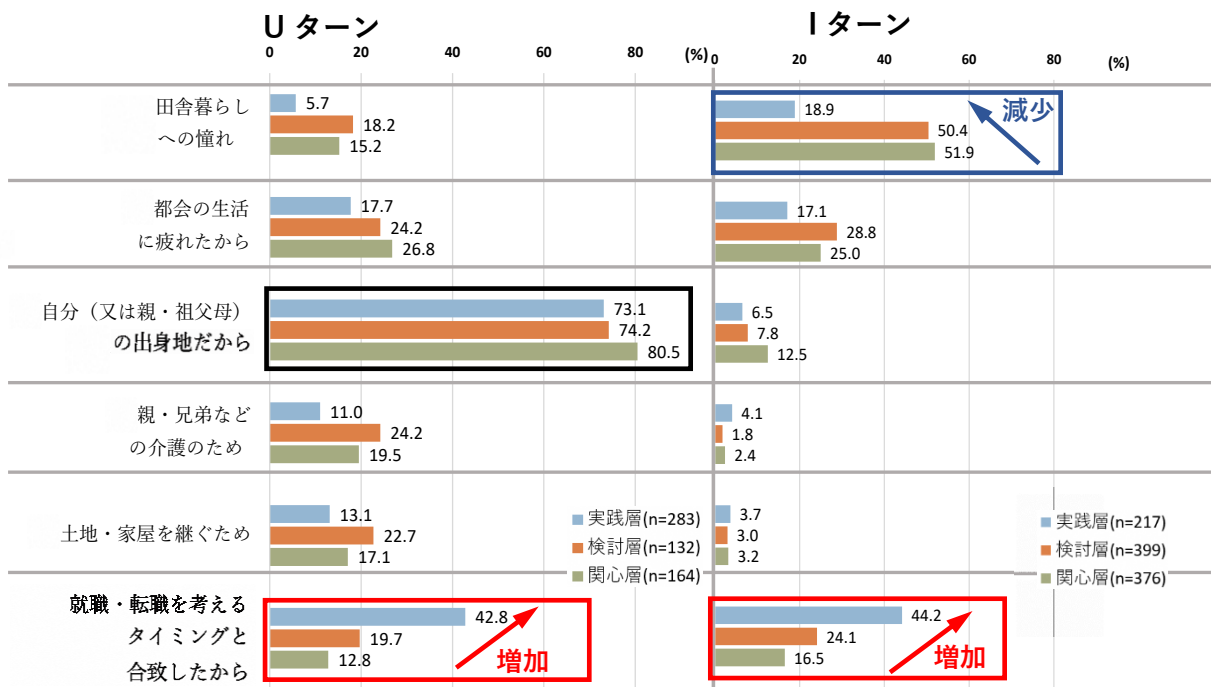
○関心層→検討層→実践層と、階層が推移するにつれて「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」などの実際的な項目が増加していくことが分かった。

■Uターン

- ・「自分の出身地だから」など血縁・地縁を要因とする項目が最大。
- ・「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」については、階層が推移するにつれて増加する。

■Iターン

- ・「田舎暮らしへの憧れ」などの漠然とした動機については、階層が推移するにつれて減少する。
- ・「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」については、階層が推移するにつれて増加する。



※複数回答。調査票から、顕著な傾向が見えたものだけを抜粋して掲載

- ・ Uターンは「自分の出身地だから」など血縁・地縁を動機として移住検討が始まり、Iターンは「田舎暮らしへの憧れ」など漠然とした動機から移住検討が始まる。
- ・ 階層が推移するにつれて「仕事（就職・転職）」など実際的な項目が出てくることから、Uターン・Iターンともに「就職・転職を考えるタイミング」を逃さず移住情報を届けることが大切である。

(2) UI ターン検討時の不安 [検討層] [関心層]

- 島根への移住に関心を持ち、検討を進めていくうえでの「不安」について分析した。
- 階層ごとの差異については大きな変動が見られないが、Uターン・Iターンの違いが見られた。

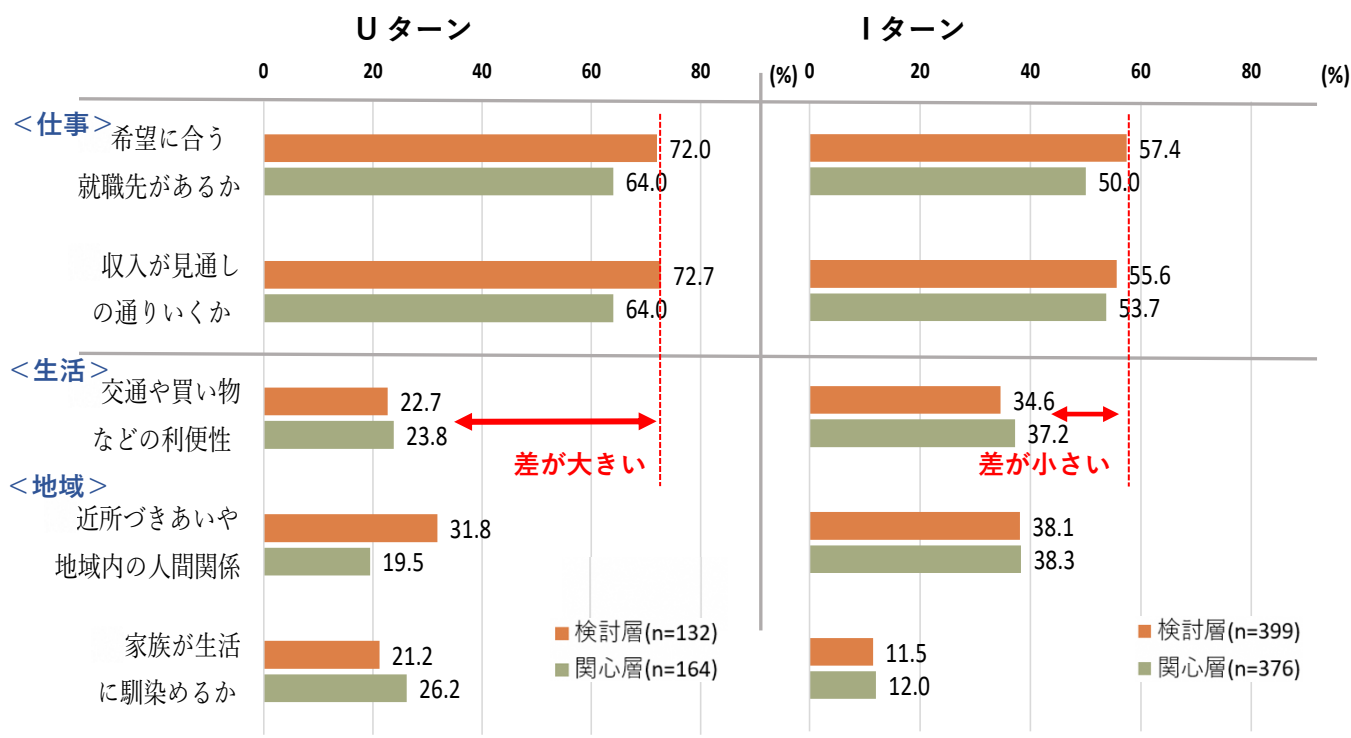
■Uターン

- ・「希望に合う就職先があるか」や「収入が見通しの通りいくか」といった<仕事>を要因とした不安が高く、その他の項目と差が大きい。

※その他の項目については、出身地域への理解度が高く不安として表れにくいと推察される

■Iターン

- ・「希望に合う就職先があるか」や「収入が見通しの通りいくか」といった<仕事>を要因とした項目と、その他の項目と差が小さく、<生活>や<地域>など多方面に対して不安がある。



※複数回答。調査票から、顕著な傾向が見えたものだけを抜粋して掲載

- ・ Uターンには「仕事情報」が、Iターンには「仕事情報」に加え「生活情報」「地域情報」の提供が必要である。

(3) UIターン検討時の具体的な困りごとや不便 [実践層] [検討層]

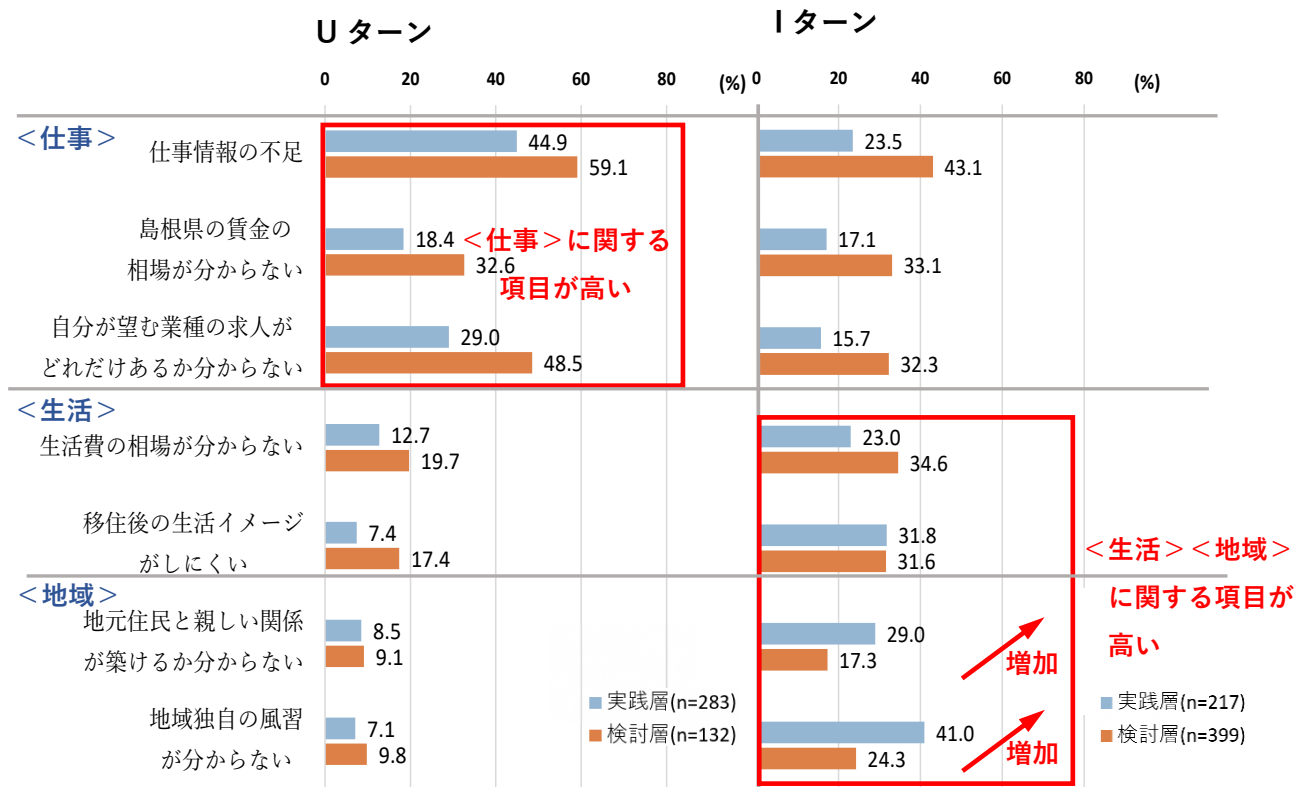
- 検討時に抱いた不安が「具体的な困りごとや不便」として表出した項目について分析した。
- Uターンはどの階層においても<仕事>に関する項目が高く、Iターンは、Uターンに比べ<生活><地域>に関する項目が高い。

■Uターン

- ・検討層、実践層ともに、「仕事情報の不足」や「自分が望む業種の求人がどれだけあるか分からない」といった<仕事>の項目が、困りごとや不便として高く現れる。
- ※その他の項目については、出身地域への理解度が高く不安として表れにくいと推察される(再掲)

■Iターン

- ・検討層、実践層ともに困りごとや不便を感じる項目が分散する。
- ・実践層では、「地元住民と親しい関係が築けるか」や「地域独自の風習が分からない」など<地域>の各項目が高くなる。



※複数回答。調査票から、顕著な傾向が見えたものだけを抜粋して掲載

- ・ 困りごとや不便の割合が減少するのは、実践段階へ移行するうえで解消もしくは折り合いをつけたものと考えられる。
- ・ ほとんどの項目は、実践層に移行する際に減少するが、例外としてIターンの場合<地域>で困りごとが増加する。

(4) UI ターン後の生活で重視する点 [実践層] [検討層] [関心層]

- 島根県へのUI ターン後の生活で重視する点を①仕事編、②生活環境編、③医療福祉・教育子育て編でそれぞれ調査した。
- 各編において、力点を置くターゲット層となる〔検討層〕において顕著な傾向が見えるものを抜粋し、年代別の傾向を分析した。

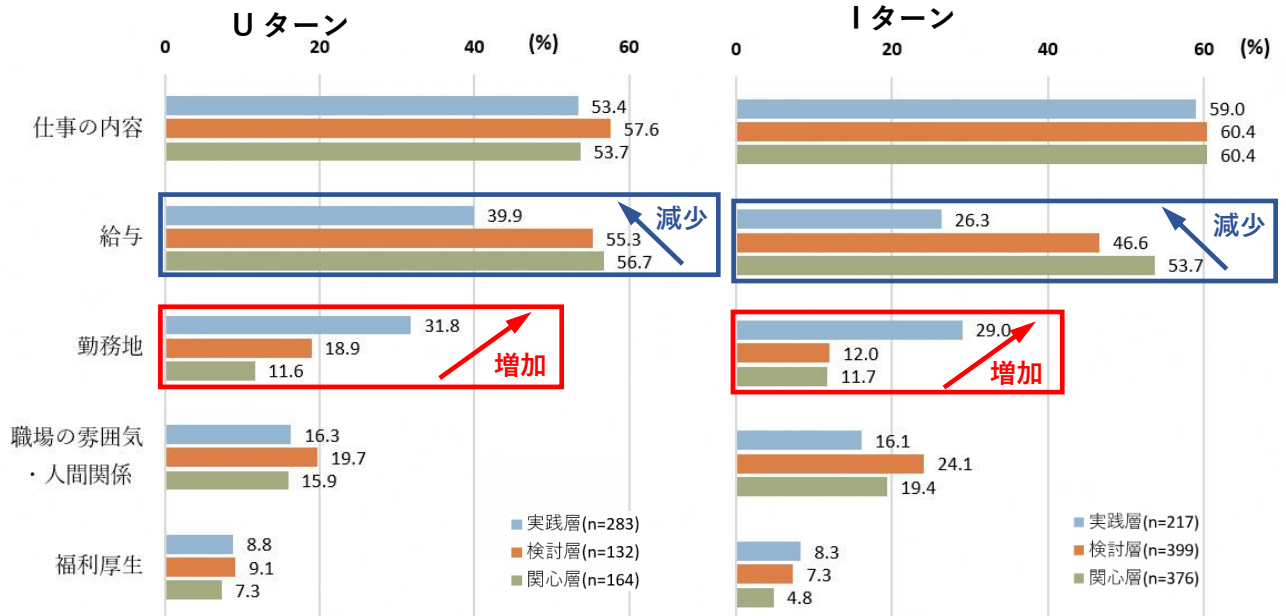
① 仕事編

■ U ターン

- ・全ての階層で「仕事の内容」と「給与」が高いが、「給与」は実践層で減少する。
- ・実践層で「勤務地」が増加する。

■ I ターン

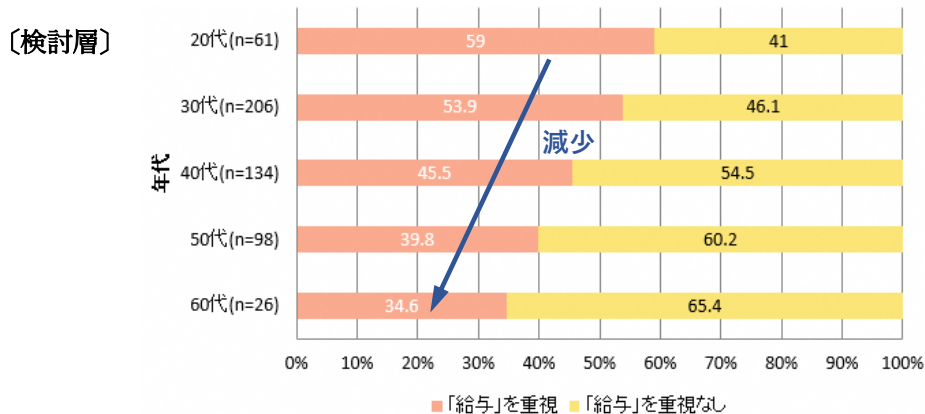
- ・全ての階層で「仕事の内容」と「給与」が高いが、「給与」は実践層で減少する。
- ・実践層で「勤務地」を重視する割合が2倍以上となる。



※複数回答。調査票から、顕著な傾向が見えたものだけを抜粋して掲載

■ UI ターン後の生活で「給与」を重視×年代 (UI ターン合計)

- ・若い年代ほど、給与を重視する傾向が見えた。



- ・ U ターン・I ターンともに「仕事内容」と「給与」を重視するが、実践層で「給与」の重視度が下がり、「勤務地」の重視度が上がる傾向がある。
- ・ 年代別で見ると「給与」は20、30代の若年層ほど重視する傾向がある。

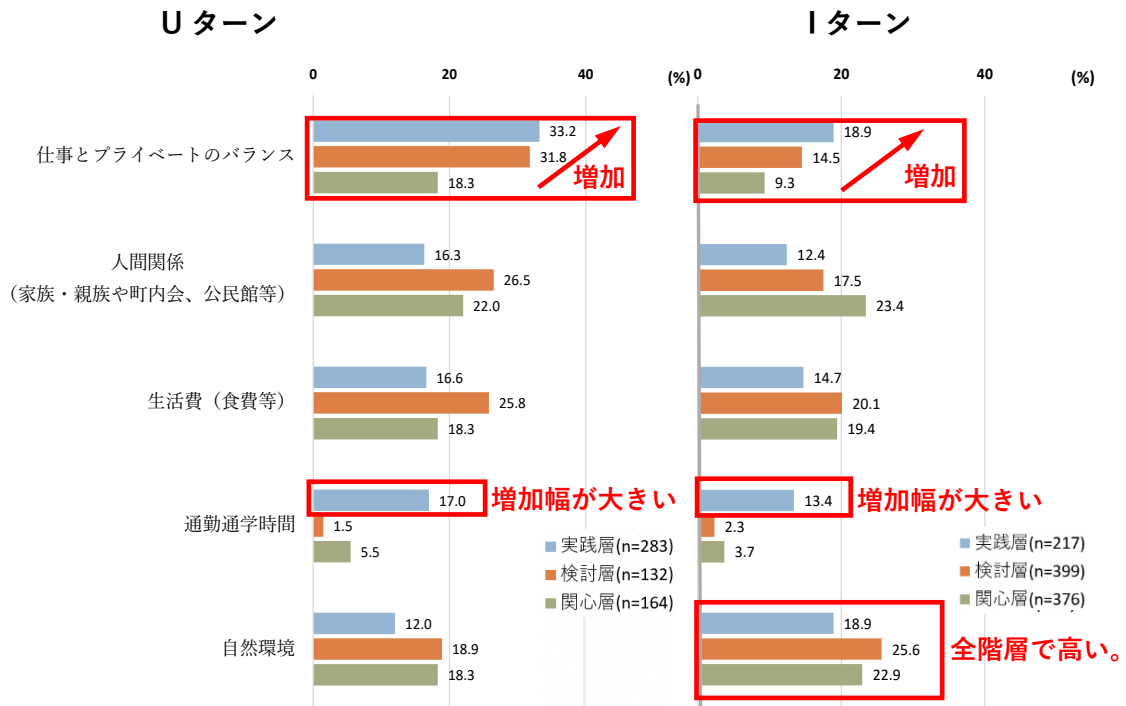
②生活環境編

■Uターン

- ・「仕事とプライベートのバランス」は階層が推移するごとに増加する。
- ・実践層で「通勤通学時間」が増加する。

■Iターン

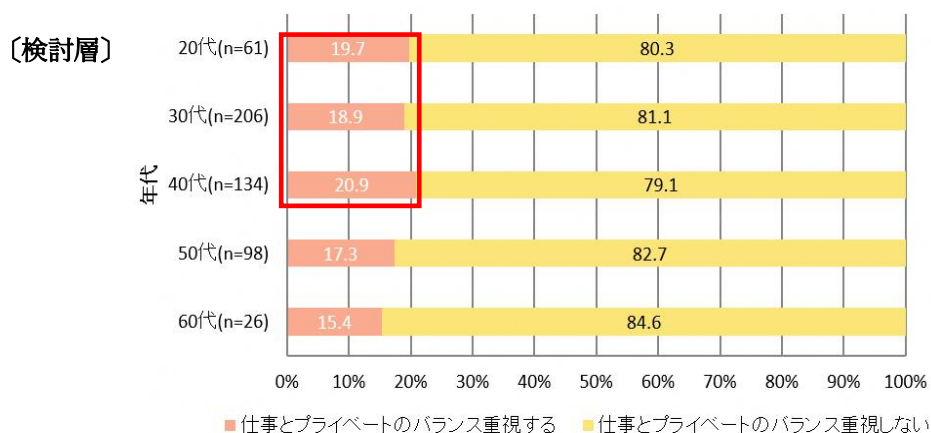
- ・「仕事とプライベートのバランス」は階層が推移するごとに増加する。
- ・実践層で「通勤通学時間」が増加する。
- ・全階層で「自然環境」がほぼ1位となる。



※複数回答。調査票から、顕著な傾向が見えたものだけを抜粋して掲載

■UIターン後の生活で「仕事とプライベートのバランス」を重視×年代 (UIターン合計)

- ・20～40代という「子育て世代」でやや「仕事とプライベートのバランス」を重視する傾向がみえた。



- ・ Uターン・Iターンともに、階層が推移するごとに「仕事とプライベートのバランス」が重視され、実践層においては、「通勤通学時間」などの実際的な事柄が増加する。
- ・ 年代別で見ると「仕事とプライベートのバランス」については、子育て世代である20～40代でやや高くなる傾向がある。

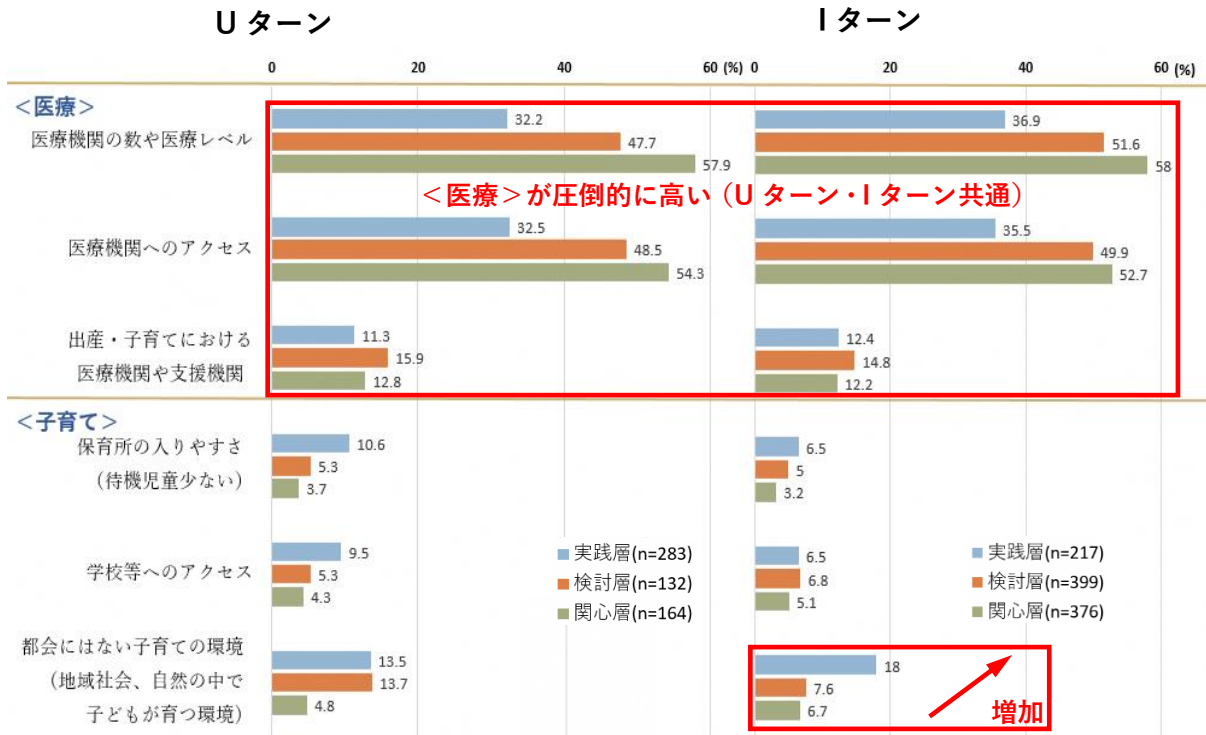
③医療福祉・教育子育て編

■Uターン

- ・全階層で「医療機関の数や医療レベル」など<医療>に関する項目が高い。

■Iターン

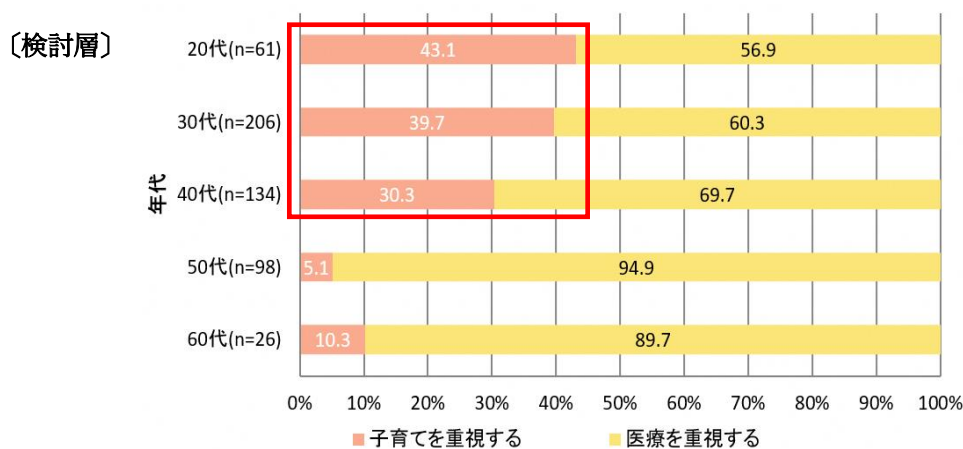
- ・全階層で「医療機関の数や医療レベル」など<医療>に関する項目が高い。
- ・実践層で「都会にはない子育て環境」が増加する。



※複数回答。調査票から、顕著な傾向が見えたものだけを抜粋して掲載

■UIターン後の生活で<子育て>に関する項目を重視×年代 (UIターン合計)

- ・20~40代という「子育て世代」で<子育て>に関する項目を重視する傾向が見えた。



- ・全体的には、<子育て>よりも<医療>が重視される傾向が見えた。
- ・年代別で見ると、子育て世代である20~40代では<子育て>に関する項目も重視される傾向が見えた。

3. 調査結果（前回比較）

（1）定住意向〔実践層〕

○島根県へUIターンした人を対象に「定住意向」を調査し、前回調査（H28）と比較した。

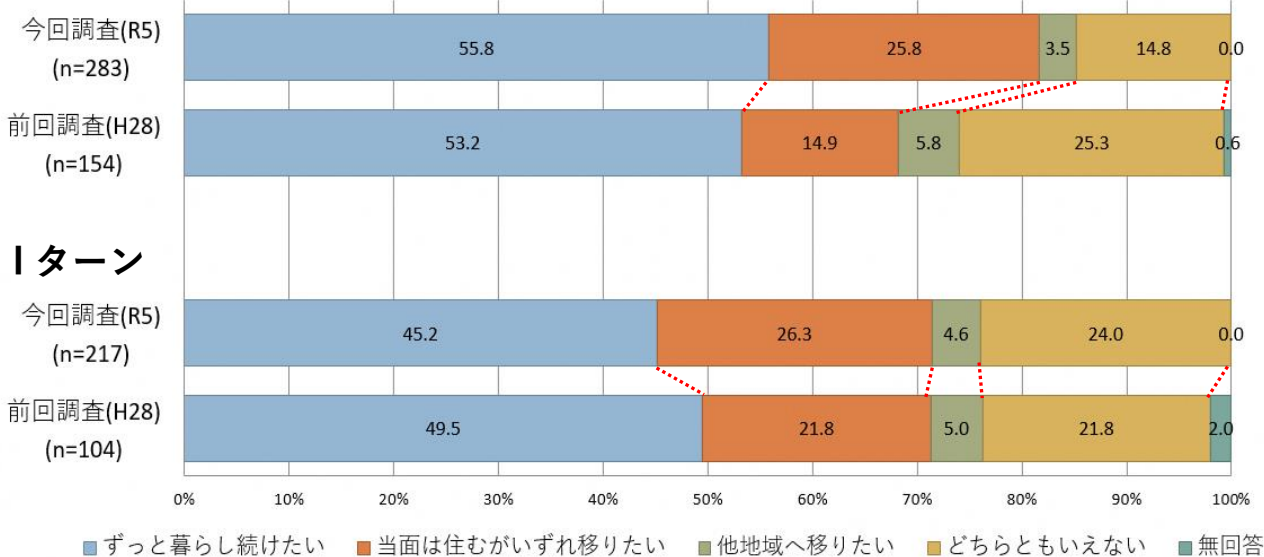
■Uターン

- ・「ずっと暮らし続けたい」が微増した。
- ・「当面は住むがいずれ移りたい」が増加する半面、「どちらとも言えない」が減少した。

■Iターン

- ・「ずっと暮らし続けたい」が微減し、「当面は住むがいずれ移りたい」が増加した。

Uターン



・「定住意向」について、前回調査と比較しUターンが微増、Iターンは微減であるものの、全体として大きな変化は見られない。

(2) 他地域へ移りたい理由 [実践層]

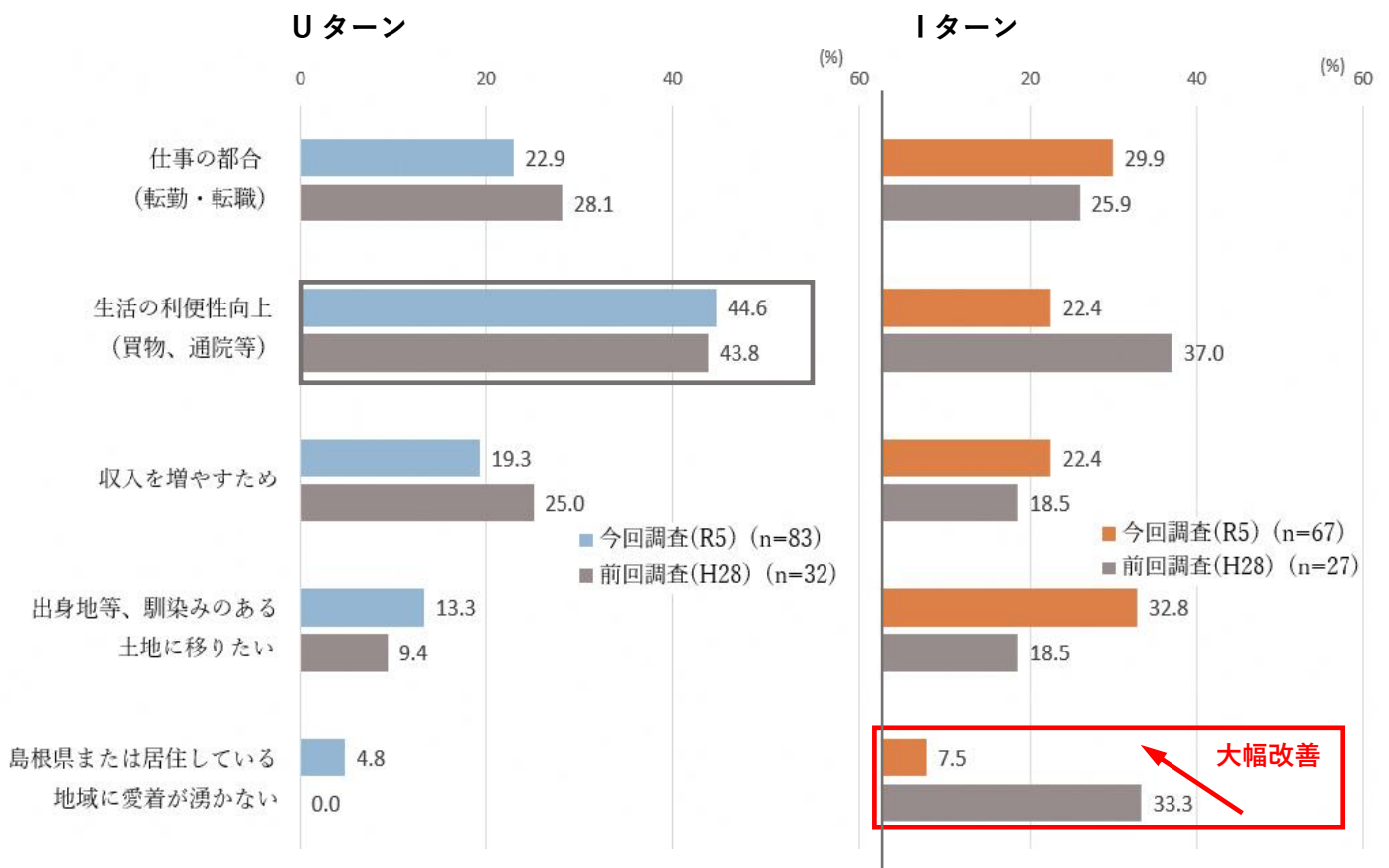
○「定住意向」の設問にて「当面は住むがいずれ移りたい」「他地域へ移りたい」と回答した方を対象に、その理由を調査し、前回と比較した。

■Uターン

- ・「生活の利便性向上」が高い。
- ・前回調査と傾向の変化は見られない。

■Iターン

- ・前回調査から「島根県または居住している地域に愛着が湧かない」が大幅に改善した。



※複数回答。調査票から、顕著な傾向が見えたものだけを抜粋して掲載

・ Uターンの他地域へ移りたい理由は「生活の利便性向上」が最も高く、前回と変化がない。

・ Iターンの他地域へ移りたい理由は「地域に愛着が湧かない」が大幅改善した。前回の調査以降に実施した施策の効果が表れていると考えられる。

※実施した施策の例
 定着支援助成金（定住財団）、定住塾（定住財団）、市町村が実施する定着支援策への交付金等

(3) UI ターン後に不便を感じたこと [実践層]

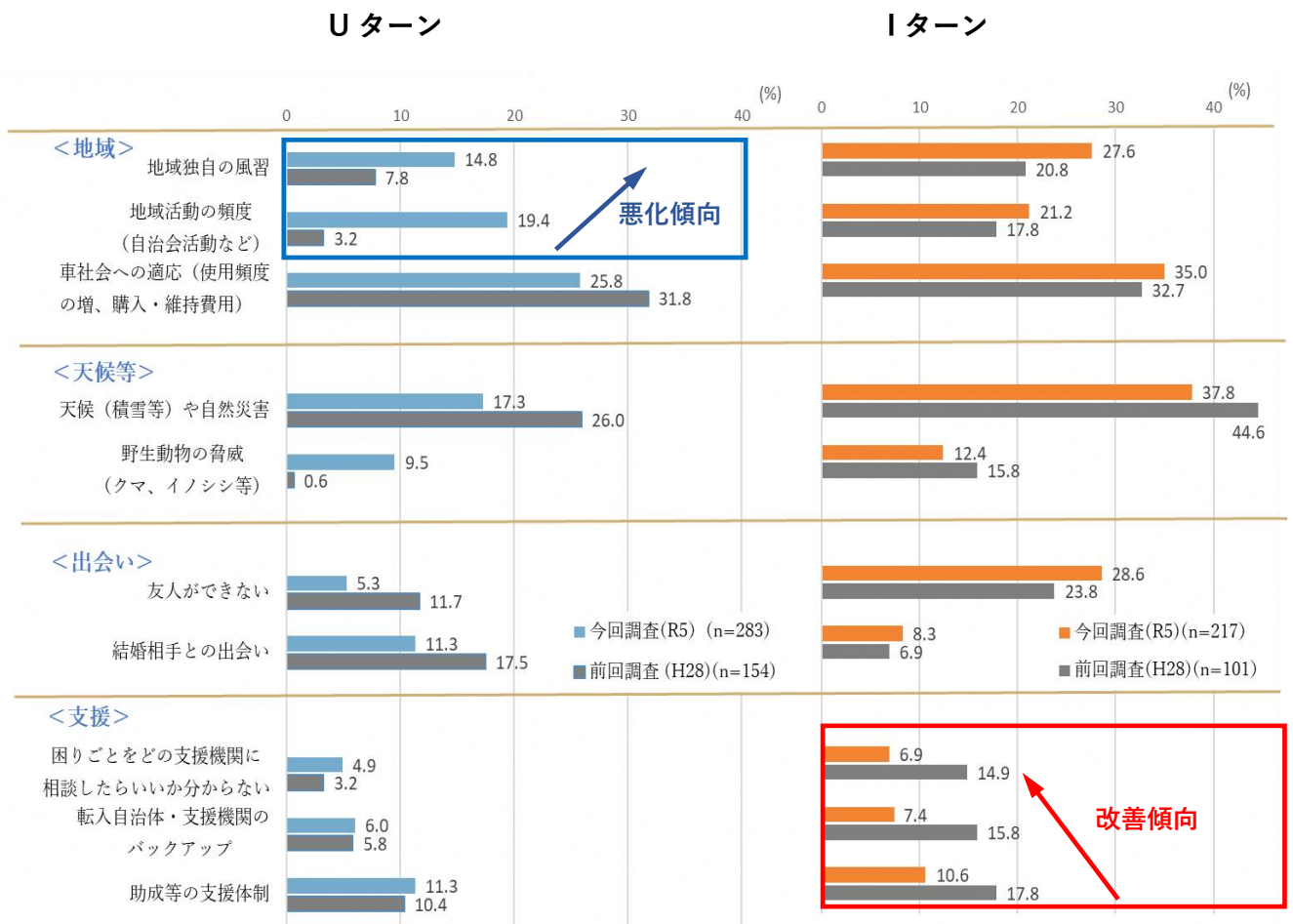
○UI ターン後に不便を感じたことを調査し、前回と比較した。

■U ターン

- ・「地域独自の風習」や「地域活動の頻度」といった<地域>に関する項目が悪化傾向を示した。

■I ターン

- ・「転入自治体・支援機関のバックアップ」や「助成等の支援体制」といった<支援>に関する項目が改善傾向を示した。



※複数回答。調査票から、顕著な傾向が見えたものだけを抜粋して掲載

- ・Uターンにおいて悪化傾向を示した<地域>に関する項目については対策の検討が必要である。
- ・Iターンにおいて改善傾向を示した<支援>に関する項目について、市町村に配置している定住支援員制度が10年経過し、相談対応スキルの向上が表れていること等が考えられる。

4. 調査結果（その他トピックス）

（1）中山間地域と非中山間地域（市街地）における定住意向の比較 [実践層]

○島根県へUIターンした人の定住意向を居住地別(中山間地域／非中山間地域)で比較した。

① 「定住意向」の比較

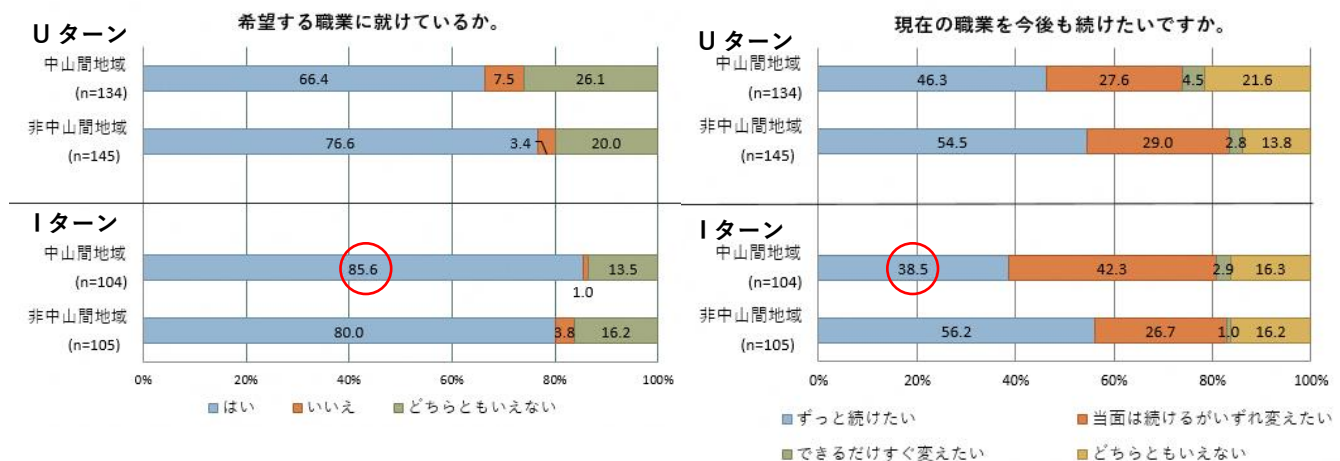
「定住意向」は、Uターン・Iターンともに中山間地域の方が低くなった。

また、中山間地域のIターンが最も低い定住意向（39.3%）を示した。



② 「職業の継続意向」の比較

中山間地域のIターンの約9割(85.6%)は「希望の職業に就いている」ものの、職業の継続意向があるのは約4割(38.5%)と低い。



- 中山間地域のIターンは、仕事や生活の満足度は高いが定住意向が低いという結果を示した。これは、地域特性に起因するものというよりも、ライフスタイルの変化に起因する可能性が考えられる。

〔調査票の自由記述より〕

『複数（4地域）拠点での生活に移行していきたい。』

〔個別インタビューより〕

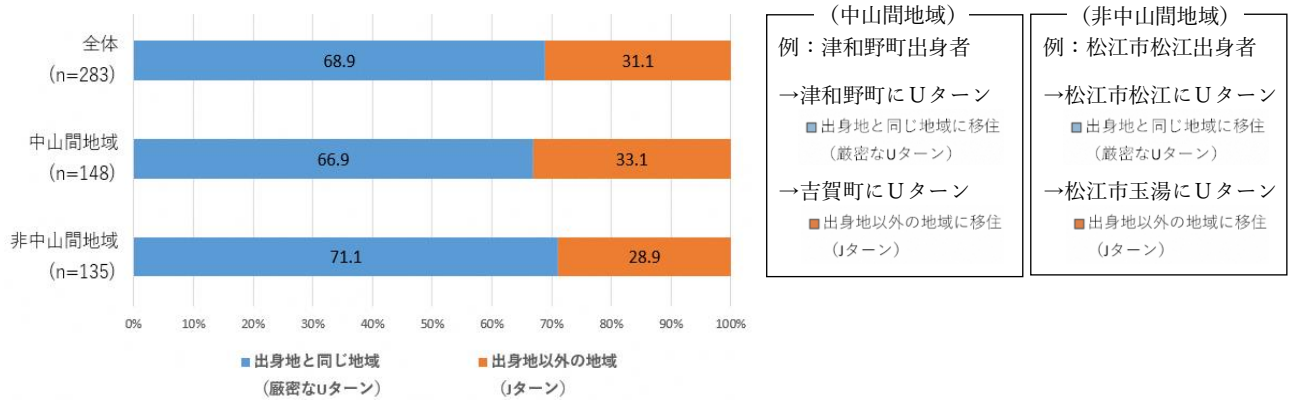
『子どもが未就学のためすぐに移住することはできないが、子どもが高校卒業するくらいには他の地域にもいってみたい。島根に不満があるのではなく好奇心から。』

(2) Uターンに関する状況 [実践層] [検討層] [低関心層]

○Uターンの状況について、各階層にて調査した。

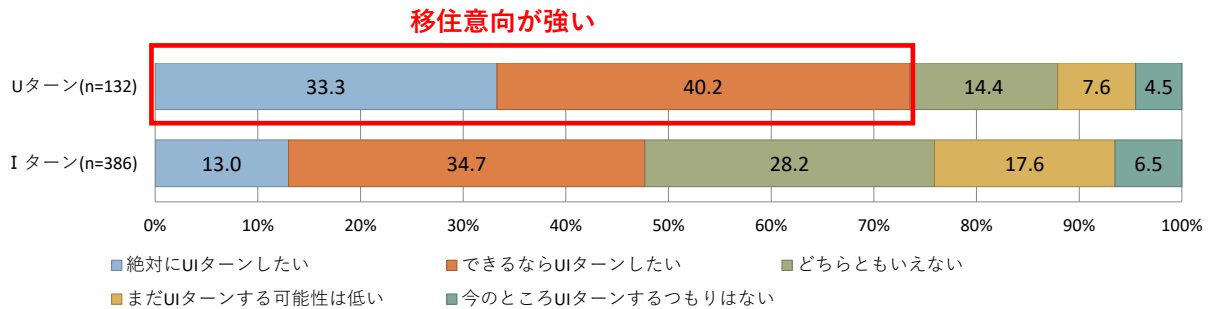
① 実践層におけるUターン先の調査

・Uターンの約7割は、出身地と同じ地域へ移住している。



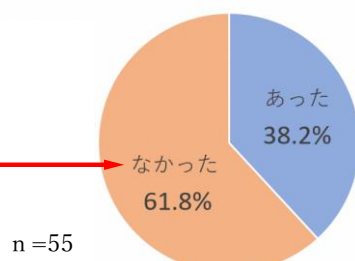
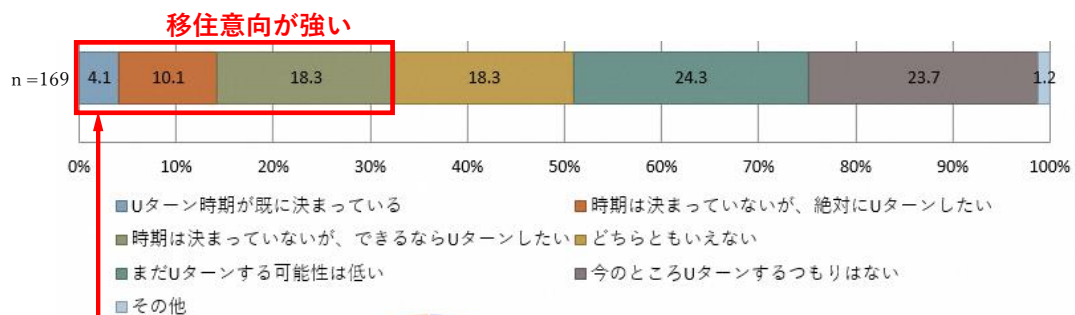
② 検討層におけるUターン意向の比較

・Uターンは、Iターンよりも移住意向が強い(「絶対にUターンしたい」が20ポイント以上の差)



③ 低関心層における情報到達状況の調査

・低関心層の約3割がUターン意向を持っている。



・低関心層においても約3割がUターンの意向をもっているが、そのうち約6割はこれまでUターン情報に触れたことがない。

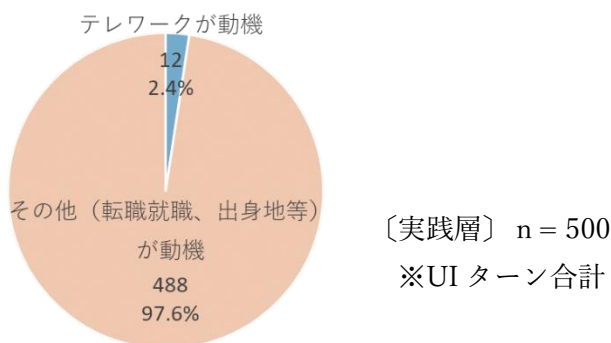
※意向が強い3区分の回答者のみで集計

(3) 転職なき移住（テレワーク等）の状況〔実践層〕〔検討層〕〔低関心層〕

○コロナ禍により拡大した「転職なき移住（テレワーク等）」の実態を調査した。

① 「転職なき移住（テレワーク等）」は、実際に移住の動機となったか

・500人のうち12人と少数であるが、動機となった実践者があった。

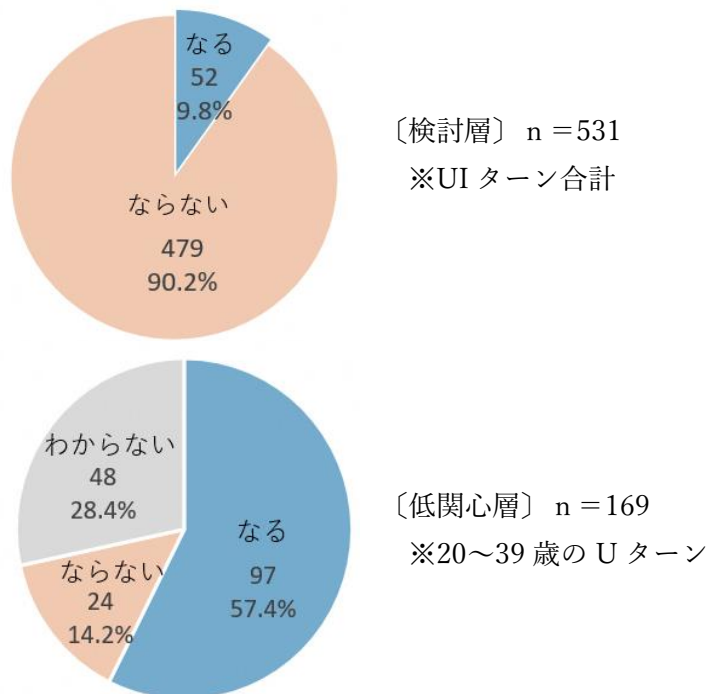


【回答者のコメント抜粋】

<個別インタビューより>

- ・ 職種はIT系。Uターンしたい気持ちがかもともとあったが、島根に戻っても仕事がないと考えていた。コロナ禍を経てテレワークによる「転職なき移住」の機運が高まり、自分の業界でも体制が整備され始めた。仕事を変えずに地元で生活できるようになったことが、Uターンを決意できた最大の動機だと思う。

② 「転職なき移住（テレワーク等）」は移住の動機となるか



- ・ 転職なき移住（テレワーク等）は、一定程度の実践者があった。
- ・ 低関心層→検討層→実践層と推移するにつれて、「転職なき移住（テレワーク）」の割合は小さくなっている。
- ・ 転職なき移住（テレワーク等）については、コロナ後の新しい動きであり今後も注視していく必要がある。

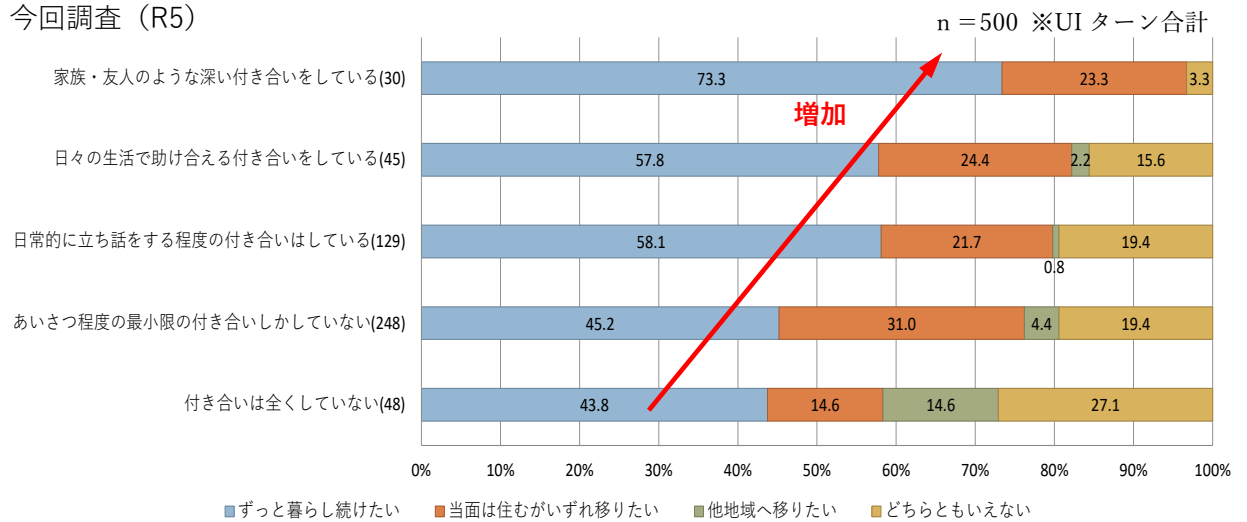
(4) 定住意向と近隣住民との付き合いの相関性 [実践層]

○前回のトピックス「定住意向」と「近隣住民との付き合い」の相関性を確認した。

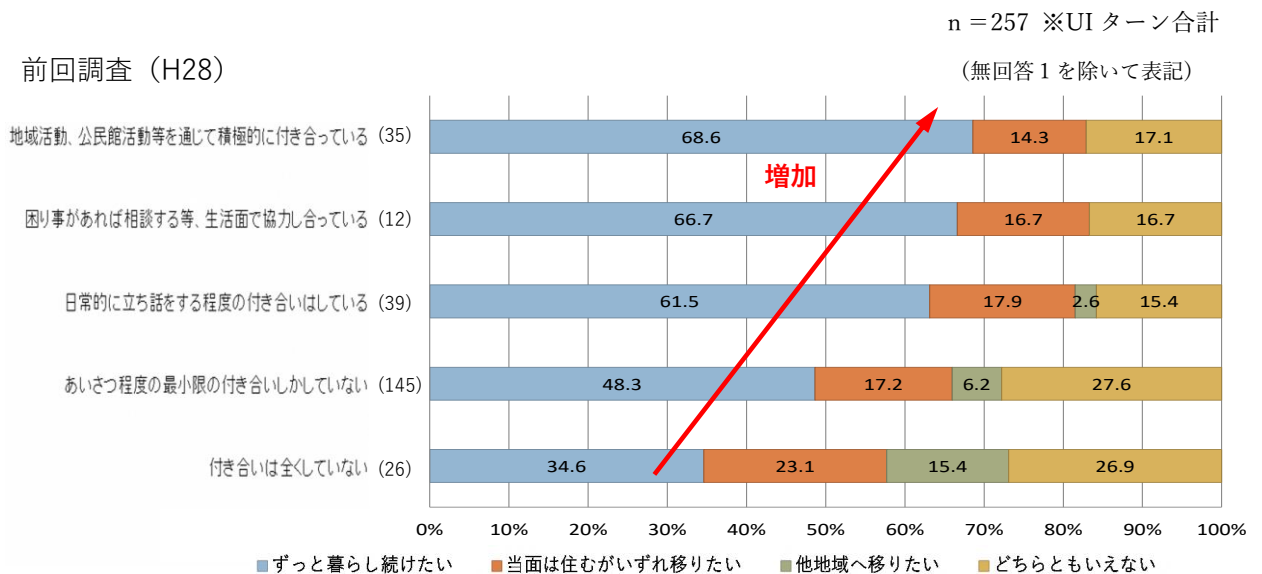
①「定住意向」と「近隣住民との付き合い」の相関性 (UI ターン合計)

・前回同様、「近隣住民との付き合い」が濃くなるほど「定住意向」は増加することが確認された。

今回調査 (R5)



前回調査 (H28)



- ・「定住意向」と「近隣住民との付き合い」の相関性が今回調査でも確認された。
- ・定住支援のため、移住者が「近隣住民との付き合い」を深めていくための支援が引き続き必要である。

5. まとめ

(1) 調査結果（階層別比較）

- 移住検討の動機、不安や具体的な困りごとのいずれも「仕事」に関する項目に高い関心が寄せられており、特に「仕事の内容」と「給与」を重視しているが、移住実践の段階になると「給与」の重視度が下がり、「勤務地」の重視度が上がる。(P3～P6)
- Iターンの移住検討の具体的な困りごとについて、「移住後の生活イメージがしにくい」、「地域独自の風習が分からない」といった仕事以外の項目が、移住実践の段階になって高まる傾向にある。(P5)
- 移住後の生活環境で重視する点について、移住実践の段階になると「通勤通学時間」を意識する人が急増する。(P7)

(2) 調査結果（前回比較）

- 「定住意向」について、前回調査と比較しUターンが微増、Iターンは微減であるものの、全体として大きな変化は見られない。(P9)
- Iターンの方が他地域へ移りたい理由として、前回調査で1/3の方が理由に掲げた「居住地への愛着」については、大幅に改善されており、前回調査後に取り組んだ定着支援策に一定の効果があった。(P10)
- 一方で、Uターンの方が前回調査よりも移住後の地域活動（自治会活動など）に負担を感じている傾向も見えており、対策の検討が必要と考えられる。(P11)

(3) 調査結果（その他トピックス）

- 中山間地域のIターンについては、生活満足度や就業満足度は高いが、定住意向が低いという傾向が見られた。ライフスタイルの変化を踏まえた視点や検討が必要である。(P12)
- 出身者の約7割は、出身地域にUターンしていることが分かった。どこに住むかの選択は、移住実践の段階において「勤務地」や「通勤通学時間」を重視する割合が高まる点からも移住を決定する上で重要な要素と言える。(P13)
- 「近隣住民との付き合い」が濃いほど、定住意向は高まる傾向にある。(P15)

6. 参考1（個別意見で特徴的だったもの）

（1）U I ターン検討にあたって、特に困っていることや不便だと感じること

① 仕事に関すること

- 都会並みの賃金は求めないが、最低賃金ストレスな給与水準を見ると、帰りたくても帰れないと思ってしまう。（U・関心層）
- 初任給の相場はだいたいわかるが、中途採用の場合の給与相場が分からず、現在都会で得ている収入からどれほど下がるのかが分かりにくい。（U・検討層）
- 検討するにあたって困ることは、やはり仕事情報の量がどうしても少なく感じてしまう。（U・検討層）
- 大手求人サイトに島根県の求人が少なく、また仕事の相場感も分からなかった。（U・実践層）
- どんな仕事があるのか、どの程度収入が下がるのか、生活費はどの程度下がるのかが見えないので仕事が決まるまで不安だった。（I・実践層）

② 住まいに関すること

- 今、現地視察をしたいと思っているが、全く土地勘がないため具体的なプランが作れずにいる。住む場所も、市内のアパートにするか、近隣の一軒家にするかの判断ができないなど、具体的に移住の検討をするキッカケを掴めていない。（I・関心層）
- 不動産情報の収集で出雲より西の情報が少ない。検索方法が悪いのか見つけられない。（U・検討層）
- 自治体に不動産屋を紹介してもらったが、U I ターンに特化しているわけでもなく、何を相談しても「本人が決めること」と一蹴された。相談に乗ってもらえる業者を紹介して欲しかった。（I・実践層）
- 思っていたよりも松江や浜田の家賃が高く、いったん賃貸に住んで住居を探すということが難しかった。（I・実践層）

③ 日常生活に関すること

- 希望している職種はもちろんありますがその仕事を含めた日々の生活スタイルが見えてこない。かと言って、気軽に体験しにいける距離でもない。（I・検討層）
- どの程度の付き合いを強要され、どの程度付き合いえば納得し嫌味を言われず穏便に過ごせるのかが心配で気になります。（I・検討層）
- 西部に婦人科の病院がないこと。生理のことや更年期のことを気軽に相談できるような医療機関がないのが不安。（U・実践層）
- 車の購入に関することに困った。移住先は1人1台自動車を購入する必要がある地域であった（就業するためにも）。車を購入するタイミングが引越し後だと移動手段がなく困るため、引越し前に購入する必要がある。車購入費用の助成が必要。（I・実践層）

④ その他

- 配偶者の理解を得ることが難しい。「生活の見通しが立てられるような検討材料(資料)を用意してくれたら相談が始められる」と言われ、育児をしながら諸々の情報を集めてまとめてプレゼンをするまでの準備が自分にはできません。移住を考え始めた人に向けた行動をフローチャートなどで示していただくと助かります。(U・検討層)
- 自分が理想とする移住先や仕事について考えをまとめるのが大変。その上で、それらを実現できる移住先が存在するか探さないといけない。(I・実践層)

(2) U I ターン後に、特に困ったことや不便を感じたこと (実践層)

① 仕事に関すること

- 再就職しようと思っても業種がかなり限定的で就業先を見つけるのに困難を極める。また、自治体からの支援も I ターン者に対しては優遇と思えるが、U ターン者に対しては冷遇であると感じざるを得ない。(U)
- 県外で求職をする際には民間の求人サイトを見るのがほとんどで、県のサイトやU・I ターンの支援内容に出会う機会がなかった。(U)
- 妻の就職が決まらない。中堅クラスの一般企業では女性活躍の度合いが低く、女性は派遣勤務が主流となっている。(I)

② 車に関すること

- 車を購入したが、現状の生活費とで困窮まではいかないが前職に比べると給料も減ってしまい自由費がほぼなくなってしまった。(U)
- 一番出費がかさんでいるのは1人1台車が必要だということ。ペーパードライバーで、かつ車が注文しても半年以上入ってこず、非常に苦勞した。(U)
- 以前は電車移動を主としていたため、車運転が必須となった。大人一人に対して1台用意することやガソリン代にかかる費用が想像していたものより遥かに高かった。(I)
- 島根県内の企業へ転職した直後に自動車を購入したいと思ったが、銀行の方に「最低でも3か月間就労しないと年収の見込みが立たないため、ローンが組めない」と言われた。(I)

③ 日常生活に関すること

- 医療機関の診療科目が少ない。皮膚科とか小児科とか少なすぎる。(U)
- 婦人科の病院がないこと。子育て支援はあるが、妊娠するまでのハードルが高いように感じた。(U)
- 都会での適度な人間関係に慣れていたので、良い意味でも近すぎる関係性がめんどくさいときがある (U)
- 妻のママ友がなかなか作れない。(U)
- 中山間地域に転入したのですが、すべてにおいて物価が高く、特に衣服については 30 km～50 km 離れた所まで行かないと 10 代、20 代が着用するような物が買えない。それなのにガソリン代が高い。(I)
- 買い物（ドラッグストアがない、オムツやミルクが買えない）や医療体制（小児科がない）(I)
- 子育ての関係で、同じような年代の人がどこで何してるかわからない。(I)
- クマやイノシシが子供の通学路に出没する危険があることは気になっています。(I)
- 物価が高かった。(I)

④ その他

- 結婚適齢期の女性が男性に比べて著しく少ない。(I)
- 出雲弁を理解したり、慣れるまでに苦労した (I)

7. 参考2（調査項目一覧）

■実践層

No.	項目
1	回答者属性(性別、年齢、現住所、UIターン直前の住所、転入した年月)
2	Uターン/Iターンのどちらか
3	出身地(Uターンの場合、Iターンの場合)
4	島根県との関係
5	一緒に移住した家族の有無
6	一緒に移住した家族の構成、当時の子どもの年齢
7	UIターンを考えるようになった動機、そのなかで決め手になった動機
8	UIターン検討時に困ったことや不便を感じたこと、特に困ったことや不便を感じたこと
9	UIターン後に困ったことや不便を感じたこと、特に困ったことや不便を感じたこと
10	UIターンする前に特に重視した項目(仕事、生活環境、医療福祉・教育・子育て)
11	現在の生活の満足度
12	UIターン直前の就学・雇用形態、業種
13	UIターン直前の世帯年収
14	現在の就学・雇用形態、業種
15	希望する職業かどうか
16	現在の職業の継続意向
17	現在の世帯年収
18	現在の住宅形態
19	UIターンする際に住宅をみつけた方法
20	UIターンする際に住宅を探す上で困ったことや不便に感じたこと
21	現在の近所付き合いの程度
22	今後の近隣住民との付き合い方
23	地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの現在の参加状況
24	地域活動や自治会、公民館活動等のイベント、お祭りなどへの希望する参加状況
25	現在の地域への居住継続意向と、その理由
26	UIターン情報の収集に利用した情報・サービス等
27	UIターンする際に受けた支援制度
28	UIターンについて必要だと感じている施策やご意見・ご感想

■検討層

No.	項目
1	回答者属性(性別、年齢、現住所、出身地)
2	島根県との関係
3	現在同居している家族と子どもの年齢
4	UIターンを考えるようになった動機
5	UIターン後の生活を考える上で重視する項目(仕事、生活環境、医療福祉・教育・子育て)
6	今後のUIターン意向と希望する時期
7	島根県以外にUIターンを検討している地域の有無と、検討している地域
8	UIターンする際の不安と、そのうち最も大きな不安
9	現在の就学・雇用形態、業種
10	現在の世帯年収
11	UIターン後に希望する就学・雇用形態、業種
12	UIターン後に希望する世帯年収
13	テレワークに関する意向
14	現在の住居の形態
15	UIターン後に希望する住居の形態
16	現在の近所付き合いの程度
17	UIターン後の近所付き合いの意向
18	現在の島根県内の地域や活動とのつながり
19	UIターンを検討するにあたり困っていることや不便を感じていること、特に困っていることや不便を感じていること
20	UIターン情報の収集に利用した情報・サービス等
21	島根県、定住財団が実施する情報・サービスの満足度
22	UIターンについて必要だと感じている施策やご意見・ご感想

■関心層

No.	項目
1	回答者属性(性別、年齢、現住所、出身地)
2	島根県との関係
3	現在同居している家族と子どもの年齢
4	UIターンを考えるようになった動機
5	UIターン後の生活を考える上で重視する項目(仕事、生活環境、医療福祉・教育・子育て)
6	今後のUIターン意向と希望する時期
7	島根県以外にUIターンを検討している地域の有無と、検討している地域
8	UIターンする際の不安と、そのうち最も大きな不安
9	現在の就学・雇用形態、業種
10	UIターン後に希望する就学・雇用形態、業種
11	現在の住居の形態
12	UIターン後に希望する住居の形態
13	現在の島根県内の地域や活動とのつながり
14	UIターン情報の収集に利用した情報・サービス等
15	島根県、定住財団が実施する情報・サービスの満足度
16	UIターンについて必要だと感じている施策やご意見・ご感想

■低関心層

No.	項目
1	回答者属性(性別、年齢、出身地)
2	出身地における家族以外の大人との関わり
3	現在の就学・雇用形態、業種
4	仕事を選ぶ上で重視する項目
5	「転職なき移住(テレワーク等)」がUターンのきっかけ・後押しになるか
6	サブプロジェクトの参加以前の島根県へのUターンに関する情報に触れる機会
7	島根県へのUターンに関する情報媒体
8	島根県外への転出理由
9	今後のUターンの意向
10	Uターンを希望する時期
11	現在Uターンをしていない理由
12	Uターンを検討するために必要な支援
13	現在の島根県についての意見(自由記述)